

団子ばら作り

令和6年1月10日(水)

1. 目的と経緯

昔からこの地域では小正月には山ぼうしの木の枝に団子やみかんなどを飾りつけて五穀豊穡を祈願する家庭が多くありました。保育所でも団子づくりを通してこの風習にふれる機会をつくり、みんなが食べる物の豊作や健康を願いたいと考え、地区の民生委員の方にお願ひし、子どもたちも一緒に参加することができました。

2. 内容

年長組が小立地区の民生委員さんから団子ばらの話を聞き、団子づくりを教えてくださいました。昔ながらの作りかたで、さらに口当たりがよくなるように2種類の粉を使い、子どもたちに分かりやすいように説明しながら、実演してくれました。団子のきじは白・赤・黄・緑色の物を作り、子どもたちも丸めるところから一緒におこない団子づくりを楽しみました。小判に見たて小判形も作ってみました。→**願い事をしながらゆでた団子を木の枝にさして飾りました。**小さめに丸めた白い団子は、調理員さんにみたらし団子にしてもらい美味しくいただきました。



3. 成果と課題

子どもたちは、団子ばらの話を真剣に聞き、食べ物のありがたさも理解できたようでした。団子づくりでは、身を乗り出して粉から団子になっていくところを見ており、食育にも繋がったと思います。団子を丸めている時、「やわらかい～」と感触も楽しんでいました。手作り団子を木の枝にさして嬉しそうでした。降所時にお母さんたちと団子ばらの木を見ながら楽しく会話している姿は微笑ましかったです。

このような伝承行事を、子どもたちに伝えていく人たちが減ってきているのが現状のような気がするので、地域の方々の力添えで、今後も続けていけるとよいと思います。